

WHO ARE YOU?

まことのあなたは何者か？



ROBERT PRITCHARD

はじめに

この編集された小冊子は、天の父に引き寄せられるすべての人の心の中で神の御国を推し進めるために、聖霊により靈感されたものである(ヨハネ6:44)。私が学んだことは、いったん自分がキリストにあってどのような者なのかが分かったと、もはや地上のもろもろの要素の支配下にいるのではなく、むしろそれらの上に立って支配する者になるのだ、ということである。(ガラテヤ4:3、第一コリント15:27~28) この小冊子は「あなたが主にあって何者なのか」について完全な学習ができるようになっていくわけでもなく、すべての節を網羅しているわけでもない。しかし、私の願いは、時の初めから隠されていたが今や明らかにされた「神の奥義(コロサイ1:27)」に、これを読んでくれる読者の方々の霊の目が開かれることなのだ。私自身もこの「神の奥義」に目覚め始めたのは3年前くらいで、今でも「自分がキリストにあって何者なのか」について、その広さ、長さ、高さ、深さを学んでいる所だ。(エペソ3:17-20)

この小冊子では聖書の聖句だけを使い、コメントは極力おさえるよう努めた。

3年前にこの真理がわかり始めた頃、信仰により一歩を踏み出して、自分の末息子に手を置いて見たところ、すぐさま癒された！その時以来、私がこの教えの中を歩むことを、そして他の人たちに、彼らもイエスがされたの

と同じことや、それよりもさらに大いなるわざができるのだと教えることを阻むものは何一つない。（ヨハネ 14:12）

私はこれまでいつも物事を押し進め、達成することに力を入れてきた。しかしそれは肉のわざに頼ったやり方だった。3年前までは、とても肉的な考え方をし、御言葉にも非常に弱かった。しかし今やそれも変わりつつある！ 実際は私よりもずっとみ言葉を知っている信者が多くいることを知っているが、そのこと自体、神はどんな者も使ってくれるという証になろう。大切なのはどれくらいみ言葉を知っているかではなく、知っているみ言葉をどれくらい信じ、行っているかなのだ！

今この場を借りて、私を今まで励まし、支え、靈感し、編集し、付き合ってくれた、主にある同労者たちに感謝したい！ 心から愛している！ 私達はキリストにあって真に一つである！

どうか、小冊子にある聖句をゆっくり読んでほしい。

そして聖書を手に取り、その聖句の前の7節と、後ろの7節と一緒に読み、それらが書かれた文脈を汲み取ってほしい。そしてそれらの聖句に恋をしてほしい！ また私達の助け主である聖霊に語ってもらい、霊の目を真理に向けて開いてもらいたい！ イエスキリストの名によって祝福されよ！

エペソ1:3 ほむべきかな、私達の主イエス・キリストの父なる神。神はキリストにあって、天上で霊のもろもろの祝福をもって、私達を祝福した。（ギリシャ原語の時制を見ると完了している事を示している）

* 聖句は全て口語訳を使用。

まことのあなたは何者か？

はじめに	1
セクション1 神のオリジナルプラン.....	5
セクション2 支配権の奪還	12
セクション3 キリストと共に相続する.....	18
セクション4 奥義	24
セクション5 私達の任務	29
セクション6 任務のための力	33
セクション7 神の子として自身を表す.....	37
セクション8 御言葉を行い、信仰によって踏み出す....	43
セクション9 問題に向かって話す！イエスの御名に 信仰を置く	49
最後に	54
引用聖句索引	57

セクション1 神のオリジナルプラン

次の聖句からわかるように、神はとこしえに変わることはない。そして彼はご自身のご計画をお持ちで、そのはじめから終わりまでよくわきまえておられ、全てお見通しである。だからそのご計画もこれまで一度も変わったことはない。

また、もし神のご計画全体が不変であるならば、人類に対するご計画も、昔と同様に今日も変わらない、ということになる。

マラキ 3:6 主なるわたしは変ることがない。それゆえ、ヤコブの子らよ、あなたがたは滅ぼされない。

ヘブル 13:8 イエス・キリストは、きのうも、きょうも、いつまでも変ることがない。

ヤコブ 1:17 あらゆる良い贈り物、あらゆる完全な賜物は、上から、光の父から下って来る。父には、変化とか回転の影とかいうものはない。

人類に対する神の最初のおきて

創世記 1:26-28 26. 神はまた言われた、「われわれのか

たちに、われわれにかたどって人を造り、これに海の魚と、空の鳥と、家畜と、地のすべての獣と、地のすべてのこのうものゝを治めさせよう」27. 神は自分のかたちに人を創造された。すなわち、神のかたちに創造し、男と女とに創造された 28. 神は彼らを祝福して言われた、

「生めよ、ふえよ、地に満ちよ、地を従わせよ。また海の魚と、空の鳥と、地に動くすべての生き物とを治めよ」。

ここで注目してもらいたいのは神が人類にあたえた最初の責任は地上と地上にあるすべてのものを治め、従わせるという事だった。つまり、アダムは地上にある全てのものを統治する王あるいは監督者として、神に任命されたのだった。

アダムの責任は神が彼のために創造されたものをよく世話し、治めることだったのだ。

アダムに（又は人類に）王権が与えられたことを裏付けている聖句

詩篇 8:3-8 3. わたしは、あなたの指のわざなる天を見、あなたが設けられた月と星とを見て思います。 4. 人は何者なので、これをみ心にとめられるのですか、人の子は何者なので、これを顧みられるのですか。 5. ただ少しく人を神よりも低く造って、栄えと誉とをこうむ

らせ、 6. これにみ手のわざを治めさせ、 よろずの物を
その足の下におかれました。 7. すべての羊と牛、また
野の獣、 8. 空の鳥と海の魚、海路を通うものまでも。

5 節の「神よりも～。」の神は、原語のヘブル語では
“elohym” 「エロヒーム」となっており、複数形で
ある。（天の父である神、イエス、聖霊）だから神は人類
をご自分たちよりもほんの少し劣った存在に造られただ
けだった。（つまり私達が思っているよりずっと素晴ら
しく、造られているということだ）そうでなければ、ど
うやって人は毎日夕方に神と会話を交わせたのか？アダ
ムは神と対等に話せるくらい、非常に高い思考能力を備
えて造られていたのだ。

アダム（人類）の王権を裏付ける更なる聖句

詩篇 115:16 天は主の天である。 しかし地は人の子らに
与えられた。

ヘブル 2:5-7. 5. いったい、神は、わたしたちがここで
語っているきたるべき世界を、御使たちに服従させるこ
とは、なさらなかった。 6. 聖書はある箇所、こうあか
ししている、「人間が何者だから、 これを御心に留めら
れるのだろうか。 人の子が何者だから、 これをかえり
みられるのだろうか。」 7. あなたは、しばらくの間、

彼を御使たちよりも低い者となし、 栄光とほまれとを冠として彼に与え。

「栄光とほまれとを冠として彼に与え」これは王以外の何者であろうか？いいかえれば、アダムはこの世の君だったのだ。

これらの聖句が裏付けるように、神は人が神のみ手のわざを支配するように王権を与え、地上の支配者として冠を与えた。それが元々のご計画だった。もしその神のご計画が変わらないのであれば、人はまだ今でも神のみ手のわざを治めるべきである。

ただ一つ、覚えておかななくてはいけないことは、私達は人々を治めるのではない、ということだ。

墮落。アダムの反逆。

1 テモテ 2:13-14 13. なぜなら、アダムがさきに造られ、それからエバが造られたからである。14. またアダムは惑わされなかったが、女は惑わされて、あやまちを犯した。

ローマ 5:12 このようなわけで、ひとりの人によって、罪がこの世にはいり、また罪によって死がはいつてきた

ように、こうして、すべての人が罪を犯したので、死が全人類にはいり込んだのである。

神はエバが創られる前にアダムにその木の実を取って食べてはいけない、と命じた。

だからアダムはよく知っていたはずだ。エバは騙されたが、アダムは神に対して直接不従順を犯し、反逆の罪を犯してしまった。

創世記 2:17 しかし善悪を知る木からは取って食べてはならない。それを取って食べると、きっと死ぬであろう。」

これは即座の肉体の死をもたらす、ということではなく、霊的な死のことであり、それは実際に神から隔てられる、という意味である。

創世記 3:1 さて主なる神が造られた野の生き物のうちで、へびが最も狡猾であった。へびは女に言った、「園にあるどの木からも取って食べるなど、ほんとうに神が言われたのですか」。

創世記 3:4 へびは女に言った、「あなたがたは決して死ぬことはないでしょう。

悪魔は初めから嘘つきであった。

ヨハネ 8:44 あなたがたは自分の父、すなわち、悪魔から出てきた者であって、その父の欲望どおりを行おうと思っている。彼は初めから、人殺しであって、真理に立つ者ではない。彼のうちには真理がないからである。彼が偽りを言うとき、いつも自分の本音をはいているのである。彼は偽り者であり、偽りの父であるからだ。

1ヨハネ 3:8 罪を犯す者は、悪魔から出た者である。悪魔は初めから罪を犯しているからである。神の子が現れたのは、悪魔のわざを滅ぼしてしまうためである。

創世記 3:5-6 5. それを食べると、あなたがたの目が開け、神のように善悪を知る者となることを、神は知っておられるのです。 6. 女がその木を見ると、それは食べるに良く、目には美しく、賢くなるには好ましいと思われたから、その実を取って食べ、また共にいた夫にも与えたので、彼も食べた。

創世記 3:13 そこで主なる神は女に言われた、「あなたは、なんということをしたのです」。

女は答えた、「へびがわたしをだましたのです。それでわたしは食べました。」

アダムは蛇に、黙れ、私の妻に話しかけるのをやめろ、
というべきであった。

ルカ 4 章を見てみよう。

ルカ 4:5-6 5. それから、悪魔はイエスを高い所へ連れて
行き、またたくまに世界のすべての国々を見せて 6.
言った、「これらの国々の権威と栄華とをみんな、あなたに
あげましょう。それらはわたしに任せられていて、だれ
でも好きな人にあげてよいのですから。

この時点で悪魔がこの世の支配権を握っているのがわか
る。それを使ってイエスをも誘惑しようとしている。悪
魔はアダムを従わせることで、アダムを彼の支配下に置
き、エバを騙した。そしてアダムは主が命じたことに背
き、悪魔に従ってしまった。われわれは従う者に仕える
のだ。悪魔が人と地上との支配権を奪ったのは、この時
である。それはエデンの園で起こったのだ。（ローマ
6:16）

この時までアダムはこの世の君であった。しかしこの時
から悪魔がこの世の君となった。

セクション2 支配権の奪還

イエスは悪魔からどのように支配権を取り戻したか？

イザヤ 53:4-5, 12 4. まことに彼はわれわれの病を負い、われわれの悲しみをになった。しかるに、われわれは思った、彼は打たれ、神にたたかれ、苦しめられたのだと。5. しかし彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために碎かれたのだ。彼はみずから懲しめを受けて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ。12. それゆえ、わたしは彼に大いなる者と共に物を分かち取らせる。彼は強い者と共に獲物を分かち取る。これは彼が死にいたるまで、自分の魂をそそぎだし、とがある者と共に数えられたからである。しかも彼は多くの人の罪を負い、とがある者のためにとりなしをした。

1 ペテロ 2:24 さらに、わたしたちが罪に死に、義に生きるために、十字架にかかって、わたしたちの罪をご自分の身に負われた。その傷によって、あなたがたは、いやされたのである。

イエスの肉体は私達の罪をその身に負い、私たちの癒やしの代償として、引き裂かれなければならなかった。

マタイ 28:18 イエスは彼らに近づいてきて言われた、
「わたしは、天においても地においても、いっさいの権威を授けられた。

「いっさい」ということは「すべて」という意味である。言葉をかえて言えば、悪魔は何も権威をもっていない。ゼロである。

黙示録 1:18 また生きているものである。私は死んだことはあるが、見よ、世世限りなく、生きている者である。そして死と、黄泉とのかぎを持っている。

1ヨハネ 3:8 罪を犯す者は、悪魔から出た者である。悪魔は初めから罪を犯しているからである。神の子が現れたのは、悪魔のわざを滅ぼしてしまうためである。

悪魔自身が滅ぼされたわけではなく、人と地上に対する彼の統治権と支配とが滅ぼされたのだ。（原語では「滅ぼされた」という言葉は「元に戻す」という意味もある。）

もし私達がこの事実をしっかりと認識しないなら、私達は今でもまだ悪魔の虐げと影響の下にすることになる。

ホセア 4:6 わたしの民は知識がないために滅ぼされる。あなたは知識を捨てたゆえに、わたしもあなたを

捨てて、わたしの祭司としない。あなたはあなたの神の律法を忘れたゆえに、わたしもまたあなたの子らを忘れる。

イエスはどのように王権を奪還したのか？罪を克服することによってである。

ローマ 5:12 このようなわけで、ひとりの人によって、罪がこの世にはいり、また罪によって死がはいってきたように、こうして、すべての人が罪を犯したので、死が全人類にはいり込んだのである。

2コリント 5:21 神は私たちの罪のために、罪を知らない方を罪とされた。それは私たちが彼にあって神の義となるためなのである。

使徒行伝 10:38 神はナザレのイエスに聖霊と力とを注がれました。このイエスは、神が共におられるので、よい働きをしながら、また悪魔に押えつけられている人々をことごとくいやしながら、巡回されました。

だから病気と抑圧は悪魔からくるのである。それらは神があなたに何かレッスンを教えるために使われるものではない、ということがわかる。

詩篇 103:6 主はすべてしえたげられる者のために 正義と公正とを行われる。

大事なのはしえたげられる者の「ために」、であって、「敵対して」ではない。

コロサイ 1:20 そして、その十字架の血によって平和をつくり、万物、すなわち、地にあるもの、天にあるものを、ことごとく、彼によってご自分と和解させて下さったのである。

だれとの平和（和解）なのか？神と人との平和（和解）である。

思い出してほしい、霊的死とは神から分け隔てられることだ。

そして和解とは2つのものを1つにする、元に戻す、修復する、正しくする、などいくつかの意味がある。

ピリピ 2:9-10 9. それゆえに、神は彼を高く引き上げ、すべての名にまさる名を彼に賜わった。 10. それは、イエスの御名によって、天上のもの、地上のもの、地下のものなど、あらゆるものがひざをかがめ、

アダムの支配権は、この地上のものに対してだけだった

が、イエスが統治権を取り戻した時には地上、地下、そして天上にあるもの、そのすべてを合法的に奪還した！

エペソ 1:20-22 20 神はその力をキリストのうちに働かせて、彼を死人の中からよみがえらせ、天上においてご自分の右に座せしめ、 21. 彼を、すべての支配、権威、権力、権勢の上におき、また、この世ばかりでなくきたるべき世においても唱えられる、あらゆる名の上におかれたのである。 22 .そして、万物をキリストの足の下に従わせ、彼を万物の上にかしらとして教会に与えられた。

これがイエスの身に起こったことだった。天の父はイエスをご自分の王座の右につけた。すべてのものの上だ。

彼は頭、私達（信者/the believers）はその身体であり、私達は彼と別個の存在ではない。私達はひとつである。だから私達は彼と同じ権威の座についている。

コロサイ 2:15 そして、もろもろの支配と権威との武装を解除し、キリストにあって凱旋し、彼らをその行列に加えて、さらしものとされたのである。

敵はあらゆる支配と権威という武装を失っている。

以上、見ておわかりのように、イエスはすべての権威を取り戻したのだった。

セクション3 キリストと共に相続する

ガラテヤ 3:14 それは、アブラハムの受けた祝福が、イエス・キリストにあって異邦人に及ぶためであり、約束された御霊を、わたしたちが信仰によって受けるためである。

アブラハムの受けた祝福は聖霊であり、それが私たち異邦人にも及ぶようになった。

ガラテヤ 3:16 さて、約束は、アブラハムと彼の子孫とに対してなされたのである。それは、多数をさして「子孫たちとに」と言わずに、ひとりをさして「あなたの子孫とに」と言っている。これは、キリストのことである。

キリストは聖霊を受けた最初の人だった。そしてペンテコステの日以降、今度は私たちが聖霊を受けた。聖霊とは一体何か？それは奇跡的な証の力である！

ガラテヤ 3:26-29 26. あなたがたはみな、キリスト・イエスにある信仰によって、神の子なのである。 27. キリストに合うバプテスマを受けたあなたがたは、皆キリストを着たのである。 28. もはや、ユダヤ人もギリシヤ人もなく、奴隷も自由人もなく、男も女もない。あなた

がたは皆、キリスト・イエスにあって一つだからである。
29. もしキリストのものであるなら、あなたがたはアブラハムの子孫であり、約束による相続人なのである。

おわかりいただけたであろうか？私達は皆神の子たちである！そしてその約束によれば、全員がイエス・キリストにあって一つであり、アブラハムの子孫であり、相続人である。

私たちはその約束された聖霊の相続人である。ちょうどキリストがそうであったように、又今でもそうであるように！だから私達はイエスがされたことと同じことができるはずである。

ガラテヤ 4:1 わたしの言う意味は、こうである。相続人が子供である間は、全財産の持ち主でありながら、僕となんの差別もなく。

誰が*「全財産の持ち主」なのか？私達、相続する者である！実際は私達が生まれ変わった瞬間、相続人となったのだが、私達の多くは自分が何を持っているか知らなかった。私達はこの世を構成するすべてのもののの上に立つよう定められていたが、実際はそれらの下にいた。

*（欽定訳は「全財産の持ち主」が “lord of all”（万

物の君) ” となっている。lord の原語は「決定権をもつ主人」、「治める者、君」などとなっている。

ガラテヤ 4:2-7 2. 父親の定めた時期までは、管理人や後見人の監督の下に置かれているのである。 3. それと同じく、わたしたちも子供であった時には、いわゆるこの世のもろもろの霊力の下に、縛られていた者であった。 4. しかし、時の満ちるに及んで、神は御子を女から生れさせ、律法の下に生れさせて、おつかわしになった。 5. それは、律法の下にある者をあがない出すため、わたしたちに子たる身分を授けるためであった。 6. このように、あなたがたは子であるのだから、神はわたしたちの心の中に、「アバ、父よ」と呼ぶ御子の霊を送って下さったのである。 7. したがって、あなたがたはもはや僕ではなく、子である。子である以上、また神による相続人である。

私達はイエスが私たちのためにして下さったこと、つまり贖いのゆえに相続人となった神の子たちなので、イエスが相続したものと同じものを相続することができる。

ローマ 8:15-23 15. あなたがたは再び恐れをいだかせる奴隷の霊を受けたのではなく、子たる身分を授ける霊を受けたのである。その霊によって、わたしたちは「アバ、父よ」と呼ぶのである。 16. 御霊みずから、わたし

たちの霊と共に、わたしたちが神の子であることをあかしして下さる。 17. もし子であれば、相続人でもある。神の相続人であって、キリストと栄光を共にするために苦難をも共にしている以上、キリストと共同の相続人なのである。 18. わたしは思う。今のこの時の苦しみは、やがてわたしたちに現されようとする栄光に比べると、言うに足りない。 19. 被造物は、実に、切なる思いで神の子たちの出現を待ち望んでいる。 20. なぜなら、被造物が虚無に服したのは、自分の意志によるのではなく、服従させたかたによるのであり、 21. かつ、被造物自身にも、滅びのなわめから解放されて、神の子たちの栄光の自由に入る望みが残されているからである。 22. 実に、被造物全体が、今に至るまで、共にうめき共に産みの苦しみを続けていることを、わたしたちは知っている。 23. それだけではなく、御霊の最初の実を持っているわたしたち自身も、心の内でうめきながら、子たる身分を授けられること、すなわち、からだのあがなわれることを待ち望んでいる。

このように、私達は実はキリストと共同の相続人なのである。だから彼が持っているものは私達も持っている、ということになる。つまりイエスが持っていた力「悪魔に虐げられた囚われ人を自由にした」と同じ力を持っている。共同相続人ということは、何であれイエスが持つておられるものの100%を、私達も100%持っている

いうことである。それぞれが財産の50%を持っている、という意味ではない。それが共同相続の意味である。

ローマ 8:29 神はあらかじめ知っておられる者たちを、更に御子のかたちに似たものとしようとして、あらかじめ定めて下さった。それは、御子を多くの兄弟の中で長子とならせるためであった。

私達は来たるべき世ではなくこの世において、キリストのイメージそのものへと成長し、変えられていくべきである。力が必要なのはここ地上であり、来たるべき世では必要ない。

ガラテヤ 4:19 ああ、わたしの幼な子たちよ。あなたがたの内にキリストの形ができるまでは、わたしは、まともや、あなたがたのために産みの苦しみをする。

ガラテヤ書のこの箇所から、パウロが願っていたこととは、自分たちの内におられるキリストがどのような方であるのかを、すべての人が認識するに至ることであったとわかる。あるいはむしろ、キリストが人の中で形作られて、「自分たちがキリストのようになる」と言うべきだろうか。

エペソ 2:6 キリスト・イエスにあって、共によみがえ

らせ、共に天上で座につかせて下さったのである。

1ヨハネ 4:17 わたしたちもこの世にあって彼のように生きているので、さばきの日に確信を持って立つことができる。そのことによって、愛がわたしたちに全うされているのである。

コロサイ 2:9-10 9. キリストにこそ、満ちみちている
いっさいの神の徳が、かたちをとって宿っており、 10.
そしてあなたがたは、キリストにあって、それに満たされているのである。彼はすべての支配と権威とのかしらであり、

エペソ 3:6 それは、異邦人が、福音によりキリスト・イエスにあって、わたしたちと共に神の国をつぐ者となり、共に一つのからだとなり、共に約束にあずかる者となることである。

以上の節はかなり明確に説明していると思う。他にもまだまだ多くの節があるが、とりあえずこれらはあなたが「自分がキリストにあって何者であるか」を、もう少しよく理解するのに役立つだろう。

セクション4 奥義

ヨハネ 16:7-13 7. しかし、わたしはほんとうのことをあなたがたに言うが、わたしが去って行くことは、あなたがたの益になるのだ。わたしが去って行かなければ、あなたがたのところに助け主はこないであろう。もし行けば、それをあなたがたにつかわそう。 8. それがきたら、罪と義とさばきとについて、世の人の目を開くであろう。 9. 罪についてと言ったのは、彼らがわたしを信じないからである。 10. 義についてと言ったのは、わたしが父のみもとに行き、あなたがたは、もはやわたしを見なくなるからである。 11. さばきについてと言ったのは、この世の君(悪魔)がさばかれるからである。 12. わたしには、あなたがたに言うべきことがまだ多くあるがあなたがたは今はそれに堪えられない。 13. けれども真理の御霊が来る時には、あなたがたをあらゆる真理に導いてくれるであろう。それは自分から語るのではなく、その聞くとこを語り、きたるべき事をあなたがたに知らせるであろう。

このことをイエスが弟子たちに言った時、彼らはまだ救われておらず、聖霊も受けていなかったのもので、霊のものを理解する力がなかった。イエスは救われていない人達、霊的に死んでいるものたちを相手にしていた。注目して欲しいのは*「あらゆる」真理だ。一部分の真理と

か、ほとんどの真理とかではない。*（注：欽定訳はall
全て、となっている）

1コリント 2:14 生れながらの人は、神の御霊の賜物を受けいれない。それは彼には愚かなものだからである。また、御霊によって判断されるべきであるから、彼はそれを理解することができない。

つまり、生まれながらの人は肉的（カーナル/carnal）な人ということだ。実際にカーナルの意味は肉、体、などだ。

コロサイ 1:25-27 25. わたしは、神の言を告げひろめる務を、あなたがたのために神から与えられているが、そのために教会に奉仕する者になっているのである。

26. その言の奥義は、代々にわたってこの世から隠されていたが、今や神の聖徒たちに明らかにされたのである。 27. 神は彼らに、異邦人の受くべきこの奥義が、いかに栄光に富んだものであるかを、知らせようとされたのである。この奥義は、あなたがたのうちにいますキリストであり、栄光の望みである。

これが奥義である、「あなた方のうちにいますキリスト！！」

成熟したクリスチャンだけがこの奥義を理解するだろう。
あるいはパウロの言葉を借りるなら、聖徒達だけが！

パウロはその奥義と、彼らがキリストにあって何者であるかや、新生することによって何を得たのかを、肉的なコリントの人々に説いていた。そしてそれをガラテヤやエペソやコロサイなど、行く先々であらゆる人々に教えたのだった。

エペソ 3:3-6 3. すなわち、すでに簡単に書きおくれたように、わたしは啓示によって奥義を知らされたのである。 4. あなたがたはそれを読めば、キリストの奥義をわたしがどう理解しているかがわかる。 5. この奥義は、いまは、御霊によって彼の聖なる使徒たちと預言者たちとに啓示されているが、前の時代には、人の子らに対して、そのように知らされてはいなかったのである。 6. それは、異邦人が、福音によりキリスト・イエスにあって、わたしたちと共に神の国をつぐ者となり、共に一つのからだとなり、共に約束にあずかる者となることである。

この「あなた方のうちにいますキリスト」と「キリストのうちにいるあなた方」を真に理解することはとても重大なことであったため、この事実は悪魔から隠されなけ

ればならなかった。それがイエスのクローンの大群が彼の
闇のわざを攻撃するという結果につながると知っていた
なら、彼はキリストを十字架にかけて殺したりはしなか
っただろうから。

1コリント 2:7-8 7. むしろ、わたしたちが語るのは、隠された奥義としての神の知恵である。それは神が、わたしたちの受ける栄光のために、世の始まらぬ先から、あらかじめ定めておかれたものである。 8. この世の支配者たちのうちで、この知恵を知っていた者は、ひとりもいなかった。もし知っていたなら、栄光の主を十字架につけはしなかったであろう。

クリスチャンとして長年神の御言葉を読んできた私は、イエスが自分の心の中にいることや、自分が永遠の命を持っていることは常に知っていた。しかし新しく生まれ変わった時に何がなされたかについての真の深い意味を何も理解していなかった。それは何かと言うと、神が私達の中にいて、神の霊が私達の中に住み、私たちがイエスの御名を思いのままに使えるよう、その御名を与えられたこと、全てのこの世の支配と権威は彼の御名の下にあることを。（コロサイ2：9-10）そして私達は彼の体であり、彼はその頭であることも（コロサイ1：21-22）。実は、イエスがご自分の天の父であられ、また私たちの御父でもあられる方と一つであるように、私達とイエスも

一つであり（ヨハネ14：20）、またその御父は、崇高すぎてその愛を感じることも、愛情深い関係を築くこともできない、といったお方ではない（1ヨハネ3：1、2）。私達は彼の名前をいただいており（エペソ3：14、15）、私達はキリストと共同の相続人であり（ローマ8：17）、彼の權威を頂いている（マタイ28：18、ルカ10：19）。それはイエスを死から復活させた力そのものであり、その力は私達の内に宿っている（ローマ8：11）。またそれはしいたげられている者たちを自由にするために用いられるべき力なのだ。

セクション5 私達の任務

マルコ 6:15-20 15. 彼らに言われた、「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ。 16. 信じてバプテスマを受ける者は救われる。しかし、不信仰の者は罪に定められる。 17. 信じる者には、このようなしるしが伴う。すなわち、彼らはわたしの名で悪霊を追い出し、新しい言葉を語り、 18. へびをつかむであろう。また、毒を飲んでも、決して害を受けない。病人に手をおけば、いやされる」。 19. 主イエスは彼らに語り終ってから、天にあげられ、神の右にすわられた。

20. 弟子たちは出て行って、至る所で福音を宣べ伝えた。主も彼らと共に働き、御言に伴うしるしをもって、その確かなことをお示しになった。]

17節ではイエスは弟子たちに、「信じる者」について「このようなしるしが伴う」と話している。つまりそれは私達、次世代の信者たちだ。（イエスが話している弟子たちについて話しているのではなく、彼らが獲得するようになる新しい信者たちについて話している。つまり私達も含まれる）信者ならだれでもそれらのしるしを表すことができるし、また表しているべきだ。

注目していただきたいのは16, 17, 18節はすべて次世代の信者、つまり私達について預言しているのだ。

20節では私たちと共に働いておられる主は、私たちに伴うしるしをもって、そのみ言葉を裏付けておられる。主がご自分の御言葉を裏付けておられると証明するために、それに伴うしるしがないといけない。例えば病人に手を置いていやし、悪霊を追い出し、新しいことばを語ったりなどである。

マタイ10:7-8 7. 行って、『天国が近づいた』と宣べ伝えよ。 8. 病人をいやし、死人をよみがえらせ、らい病人をきよめ、悪霊を追い出せ。ただで受けたのだから、ただで与えるがよい。

注目していただきたい、イエスは病人のために祈れとか、らい病人のために祈れとか、そんな事は言っていない彼は癒やしなさい、清めなさい、立ち上がらせなさい、追い出しなさいと言っている。すべて命令だ。

マタイ28:18 18. イエスは彼らに近づいてきて言われた。「私は天においても地においても、いっさいの權威を授けられた。 19. それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、 20. あなたがたに命じておいたいっさいのことをするように教えよ。見よ、私は世の終わりまでいつもあなた方と共にいるのである。」

18節では「イエスはすべての力をもっている」、と言っている。つまり悪魔が持っている分はゼロだ。

20節はあなたがたに命じておいたいっさいのことをするように教えよ、と言っている。これは先ほどのマタイ 10:8の「病人をいやし、死人をよみがえらせ、らい病人をきよめ、悪霊を追い出せ。」という教えももちろん含まれる。

1ヨハネ 2:6 「彼におる」と言う者は、彼が歩かれたように、その人自身も歩くべきである。

もしイエスをご自分が歩まれたように歩むよう命じているのであれば、確かに同じことをするのが可能であるに違いない。イエスは私達にできないようなことをしなさい、とは決して言わないであろう。

1ヨハネ 4:17 わたしたちもこの世にあって彼のように生きているので、さばきの日に確信を持って立つことができる。そのことによって、愛がわたしたちに全うされているのである。

私達もこの世にあって、彼のように生きているのだから私達も彼と同じことができるはずなのである。彼は今神の王座の右に着座されている。私達の権威はそこから来

ているのだ。

2コリント 5:19-20 19. すなわち、神はキリストにおいて世をご自分に和解させ、その罪過の責任をこれに負わせることをしないで、わたしたちに和解の福音をゆだねられたのである。 20. 神がわたしたちをとおして勧めをなさるのであるから、わたしたちはキリストの使者なのである。そこで、キリストに代って願う、神の和解を受けなさい。

和解とは、二者の関係が再び正されることを意味する。すなわち神と、インマヌエル*たる人との関係である。そして私達の任務は失われた者たちが神と和解できるよう仲立ちすることである。

*インマヌエル：「神、われらと共にいます。（マタイ1：23など）」という意味だが、ギリシャ原語は「共にいる」の部分で、絆が一番強い意味を表す言葉が使われている。また、全てを分けあう、という意味もある。

セクション6 任務のための力

ヨハネ 14:12 よくよくあなたがたに言うておく。わたしを信じる者は、またわたしのしているわざをするであろう。そればかりか、もっと大きいわざをするであろう。わたしが父のみもとに行くからである。

イエスは天の父のみもとに行かれただろうか？もしそうなら、私達は彼よりも大いなるわざができるはずである！

ヨハネ 14:13-17 13. わたしの名によって願うことは、なんでもかなえてあげよう。父が子によって栄光をお受けになるためである。 14. 何事でもわたしの名によって願うならば、わたしはそれをかなえてあげよう。 15. もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。 16. わたしは父にお願いしよう。そうすれば、父は別に助け主を送って、いつまでもあなたがたと共におらせて下さるであろう。 17. それは真理の御霊である。この世はそれを見ようともせず、知ろうともしないので、それを受けることができない。あなたがたはそれを知っている。なぜなら、それはあなたがたと共におり(dwell with)、またあなたがたのうちにいる(in you)からである。

イエスの弟子たちはこの時点ではまだ救われていなかった*。だから、聖霊は彼らの中に入ることができず、ただ彼らと共にいることしかできなかった。

——*救われていない、ということは、彼らはまだ罪からの清めがないので、聖霊は彼らの中にはまだ入れないし、住むことはできなかった。

使徒行伝 1:8 ただ、聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう。

この「力」とはギリシャ原語で「デューナミス」といい奇跡的な力、という意味だ。

ヨハネ 1:12 しかし、彼を受け入れた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力*を与えたのである。——*「ギリシャ原語では(exousia)エグズーシア”」

(エグズーシア) その権威があること。又は事前許可の意。

1ヨハネ 2:6 「彼におる」と言う者は、彼が歩かれたように、その人自身も歩くべきである。

もしかればそういったなら、私達はそれができるのである！

1ヨハネ 2:20 しかし、あなたがたは聖なる者に油を注がれているので、あなたがたすべてが、そのことを知っている。（参照：2 コリント 5:17, 18）

1ヨハネ 2:27 あなたがたのうちには、キリストからいただいた油がとどまっているので、だれにも教えてもらう必要はない。この油が、すべてのことをあなたがたに教える。それはまことであって、偽りではないから、その油が教えたように、あなたがたは彼のうちにとどまっていなさい。

1ヨハネ 3:1-2 1. 私たちが神の子と呼ばれるためにどんなに大きな愛を父から賜ったことか、よく考えてみなさい。わたしたちは、すでに神の子なのである。世がわたしたちを知らないのは、父を知らなかったからである。 2. 愛する者たちよ。わたしたちは今や神の子である。しかし、わたしたちがどうなるのか、まだ明らかではない。彼が現れる時、わたしたちは、自分たちが彼に似るものとなることを知っている。そのまことの御姿を見るからである。

聞いただろうか？「今や私達は神の子である」とある。

1ヨハネ 4:17 わたしたちもこの世にあって彼のように生きているので、さばきの日に確信を持って立つことができる。そのことによって、愛がわたしたちに全うされているのである。

私達は父のみ前に恐れや、罪の意識や劣等感などを持つことなく立つことができる。なぜなら神は私達をキリストの内において義として下さったからである。(参考：2コリント 5:21)

セクション7 神の子として自身を表す

2コリント 5:17-18 17. だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られた者である。古いものは過ぎ去った、見よ、すべてが新しくなったのである。 18. しかし、すべてこれらの事は、神から出ている。神はキリストによって、わたしたちをご自分に和解させ、かつ和解の務をわたしたちに授けて下さった。

ガラテヤ6:15 割礼のあるなしは問題ではなく、ただ、新しく造られることこそ、重要なのである。

私達が救われた時、私達の霊は新たにされ、新しい創造物となり神との関係も正された。（義とされた。）私達は永遠の命を与えられた。神がそのすべてをされた。私たちの霊には神が対処して下さったが、私達の魂は私達の責任の下にある。

魂の成熟とは、自分の思いを、正しく解釈された神の言葉に一致させ、それに沿って歩むことである。

エペソ 4:11-15 11. そして彼は、ある人を使徒とし、ある人を預言者とし、ある人を伝道者とし、ある人を牧師、教師として、お立てになった。 12. それは、聖徒たち（私たち）をととのえて奉仕のわざをさせ、キリストのからだを建てさせ、 13. わたしたちすべての者が、神

の子を信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致とに到達し、全き人となり、ついに、キリストの満ちみちた徳の高さにまで至るためである。14. こうして、わたしたちはもはや子供ではないので、だまし惑わす策略により、人々の悪巧みによって起る様々な教の風に吹きまわされたり、もてあそばれたりすることがなく、15. 愛にあって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達するのである。

13節の「彼を知る知識の一致とに達し」という箇所では、パウロは救われていない人々にではなく、既に救われている、エペソのクリスチャンに向けて話している。私達もまた勿論、イエスは神のみ子だと知っていて、それを信じている。これらの使徒たち、預言者たち、伝導者たち、牧師たち、教師たちは私たちが成長してイエスのようになり、イエスが持っていた知識、すなわち完全で欠けたところのない、経験による理解を得られるよう、助けるためにいる。そして私たちが全き人となり、ついに、キリストの満ちみちた徳の高さにまで至るためである。愛する者たちよ、ここが重要な点である。

だから私達は普通の人間のように語り、考えることをやめ
という決断をする必要がある。そして神の子のように考
え行動し始める必要がある。そして純粋な神の子の唯一
の見本は、イエスに他ならない。だからイエスのよ

うに語り、考え始めのだ。

1コリント 2：16にあるように、「しかし私達はキリストの
思いを持っている。」

エペソ 3:17-20 17. また、信仰によって、キリストが
あなたがたの心のうちに住み、あなたがたが愛に根ざし
愛を基として生活することにより、 18. すべての聖徒
と共に、その広さ、長さ、高さ、深さを理解することが
でき、 19. また人知をはるかに越えたキリストの愛を知
って、神に満ちているもののすべてをもって、あなたが
たが満たされるように、と祈る。 20. どうか、わたした
ちのうちに働く力によって（原文：力によって→力に
応じて）わたしたちが求めまた思うところのいっさい
を、はるかに越えてかなえて下さることができるかたに。

18節にあるように、キリストにあって、あなたはどのよう
な人であるかを、その広さ、長さ、高さ、深さを把握し理
解することができるように望む。そしてあなたの中にい
るキリストがどのような方であるかもだ。私自身も未だ
に毎日、キリストにあって、自分とはどのようなものな
のか、また自分の中にいるキリストはどのような方なの
かを毎日発見しているところである。

ローマ 8:19-21 19. 被造物は、実に、切なる思いで神の子たちの出現を待ち望んでいる。 20. なぜなら、被造物が虚無に服したのは、自分の意志によるのではなく、服従させたかたによるのであり、 21. かつ、被造物自身にも、滅びのなわめから解放されて、神の子たちの栄光の自由に入る望みが残されているからである。

私達神の子たちが神の子として歩き始めるとき、被造物の滅びのなわめから解放され、アダムの罪によって下されたこの世の呪いから解き放たれるだろう。

私たちが悪魔のしいたげから、一人の囚われ人を自由にする度に神のみ国は拡大し、悪魔の王国は退却を余儀なくされるだろう。

ヘブル 2:3-4 3. わたしたちは、こんなに尊い救をなおざりにしては、どうして報いをのがれることができようか。この救は、初め主によって語られたものであって、聞いた人々からわたしたちにあかしされ、 4. さらに神も、しるしと不思議とさまざまな力あるわざとにより、また、御旨に従い聖霊を各自に賜うことによって、あかしをされたのである。

2コリント 12:12 わたしは、使徒たるの実を、しるしと奇跡と力あるわざとにより、忍耐をつくして、あなたが

たの間であらわしてきた。

ローマ 15:19 しるしと不思議との力、聖霊の力によって、働かせて下さったことの外には、あえて何も語ろうとは思わない。こうして、わたしはエルサレムから始まり、巡りめぐってイルリコに至るまで、キリストの福音を満たしてきた。

使徒行伝 4:30 そしてみ手を伸ばしていやしをなし、聖なる僕イエスの名によって、しるしと奇跡とを行わせて下さい」。

使徒行伝 6:8 さて、ステパノは恵みと力とに満ちて、民衆の中で、めざましい奇跡としるしを行っていた。

愛する者たちよ、私達はこの世を治め、神の御手のわざを話をし、地上を繁栄させ、それを制覇し統治するよう、世が造られる前から神によってあらかじめ定められた者なのだ。

エペソ 1:4-5 4. みまえにきよく傷のない者となるようにと、天地の造られる前から、キリストにあってわたしたちを選び、 5. わたしたちに、イエス・キリストによって神の子たる身分を授けるようにと、御旨のよしとするとともに従い、愛のうちにあらかじめ定めて下さった

のである。

エペソ 1:17-23 17. どうか、わたしたちの主イエス・キリストの神、栄光の父が、知恵と啓示との霊をあなたがたに賜わって神を認めさせ、 18. あなたがたの心の目を明らかにして下さるように、そして、あなたがたが神に召されていただいている望みがどんなものであるか、聖徒たちがつぐべき神の国がいかに栄光に富んだものであるか、 19. また、神の力強い活動によって働く力が、わたしたち信じる者にとっていかに絶大なものであるかを、あなたがたが知るに至るように、と祈っている。

20. 神はその力をキリストのうちに働かせて、彼を死人の中からよみがえらせ、天上においてご自分の右に座せしめ、 21. 彼を、すべての支配、権威、権力、権勢の上におき、また、この世ばかりでなくきたるべき世においても唱えられる、あらゆる名の上におかれたのである。

22. そして、万物をキリストの足の下に従わせ、彼を万物の上にかしらとして教会に与えられた。 23. この教会（あなたと私）はキリストのからだであって、すべてのものを、すべてのもののうちに満たしているかたが、満ちみちているものに、ほかならない。

セクション 8 御言葉を行い、信仰によって踏み出す

1コリント 3:1-3 1. 兄弟たちよ。わたしはあなたがたには、霊の人に対するように話すことができず、むしろ、肉に属する者、すなわち、キリストにある幼な子に話すように話した。 2. あなたがたに乳を飲ませて、堅い食物は与えなかった。食べる力が、まだあなたがたになかったからである。今になってもその力がない。 3. あなたがたはまだ、肉の人だからである。あなたがたの間に、ねたみや争いがあるのは、あなたがたが肉の人であって、普通の人間のように歩いているためではないか。

人はどのように人生を歩むのか？肉的に考え、つまり五感に頼って生きている。神の子たちは信仰によって歩む見えるものによらず、見えないものによって歩む。

1ペテロ 2:2 今生れたばかりの乳飲み子のように、混じりけのない霊の乳を慕い求めなさい。それによっておい育ち、救に入るようになるためである。

ヘブル 5:11-14 11. このことについては、言いたいことがたくさんあるが、あなたがたの耳が鈍くなっているので、それを説き明かすことはむずかしい。 12. あなた

がたは、久しい以前からすでに教師となっているはずなのに、もう一度神の言の初歩を、人から手ほどきしてもらわねばならない始末である。あなたがたは堅い食物ではなく、乳を必要としている。13. すべて乳を飲んでいる者は、幼な子なのだから、義の言葉を味わうことができない。14. しかし、堅い食物は、善悪を見わける感覚を実際に働かせて訓練された成人のとるべきものである。

私たち皆が知っている通り、御言葉が私達の生きる基準である。あるいは少なくとも、それを基準として生きているべきである。では何が「堅い食物」なのか？勿論私達は御言葉の乳によっておい育つのだが、それならなぜパウロはこのヘブル5章13節で、「すべて乳を飲んでいる者は、幼な子なのだから、義の言葉を味わうことができない」と言っているのか？パウロはここで乳を飲むことや、幼な子について語っている。そして14節では善悪を見分ける感覚は実際に働かせて訓練されなければならない、と言っている。

つまり、何かをし、御言葉通りに行動し、御言葉に書かれていることに従うことこそが、成人の取るべき食物、ということになる。

ヨハネ 7:17 神のみこころを行おうと思う者であれば、

だれでも、わたしの語っているこの教が神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう。

このヨハネ7:17は非常に興味深い。ほとんどの読者は「もし自分が教えを知っていれば、み心を行える。」と考えるだろう。しかし、それは仮に何かのやり方を教えてくれる手引書を勉強したとしても、実際にやってみるまでは、どのようにやるのか本当にはわかっていないのと同じだ。例えば、ある車のエンジン交換のやり方を本で勉強することはできるが、実際に手を動かし、学んだエンジン交換のやり方を実行し、その過程で難しさを体験し、そこから学ぶまではそれはただの机上の知識なのだ。ここの節は先程のヘブル5章14節の食物の節と関係し

ている。「善悪を見分ける感覚を実際に働かせて訓練する」。

ヨハネ 4:27-34 27. そのとき、弟子たちが帰って来て、イエスがひとりの女と話しておられるのを見て不思議に思ったが、しかし、「何を求めておられますか」とも、「何を彼女と話しておられるのですか」とも、尋ねる者はひとりもなかった。 28. この女は水がめをそのままそこに置いて町に行き、人々に言った、 29. 「わたしのしたことを何もかも、言いあてた人がいます。さあ、見に来てごらんなさい。もしかしたら、この人がキリスト

かも知れません。」30. 人々は町を出て、ぞくぞくとイエスのところへ行った。31. その間に弟子たちはイエスに、「先生、召しあがってください」とすすめた。32. ところが、イエスは言われた、「わたしには、あなたがたの知らない食物がある」。33. そこで、弟子たちが互に言った、「だれかが、何か食べるものを持ってきてさしあげたのであろうか」。34. イエスは彼らに言われた、「わたしの食物（肉）というのは、わたしをつかわされたかたのみこころを行い、そのみわざをなし遂げることである。

ここでもイエスはご自分の食物（肉）は神のみこころを行うことだと言っている。

マタイ 7:24-27 24. それで、わたしのこれらの言葉を聞いて行う者を、岩の上に自分の家を建てた賢い人に比べることができよう。25. 雨が降り、洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけても、倒れることはない。

岩を土台としているからである。26. また、わたしのこれらの言葉を聞いても行わない者を、砂の上に自分の家を建てた愚かな人に比べることができよう。27. 雨が降

り、洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけると、倒れてしまう。そしてその倒れ方はひどいのである」。

「私のこれらの言葉を聞いて行うものを、わたしは賢い人に比べよう。」

ヤコブ 1:22-24 22. そして、御言を行う人になりなさい。おのれを欺いて、ただ聞くだけの者となってはいけない。23. おおよそ御言を聞くだけで行わない人は、ちょうど、自分の生れつきの顔を鏡に映して見る人のようである。24. 彼は自分を映して見てそこから立ち去ると、そのとたんに、自分の姿がどんなであったかを忘れてしまう。

これでもう私達が御言葉を行動に移すことについて、御言葉からの十分な証拠（聖句）が揃ったと思う。ではどのようにするのか？

マタイ 28:18-20 18. イエスは彼らに近づいてきて言われた、「わたしは、天においても地においても、いっさいの権威を授けられた。19. それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、20. あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである」。

イエスは私達に何をするように命じたのか？

マルコ 16:15-18 15. そして彼らに言われた、「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ。 16. 信じてバプテスマを受ける者は救われる。しかし、不信仰の者は罪に定められる。 17. 信じる者には、このようなしるしが伴う。すなわち、彼らはわたしの名で悪霊を追い出し、新しい言葉を語り、 18. へびをつかむであろう。また、毒を飲んでも、決して害を受けない。病人に手をおけば、いやされる」。

セクション9 問題に向かって話す！イエスの御名に信仰を置く

2コリント 4:13 「私は信じた。それゆえに語った。」としるしてあるとおり、それと同じ信仰の霊を持っているので、私たちも信じている。それゆえに語るのである。

ヘブル1:3 御子は神の栄光の輝きであり、神の本質の真の姿であって、その力ある言葉をもって万物を保っておられる。そして罪のきよめのわざをなし終えてから、いと高き所にいます大能者の右に、座につかれたのである。

マルコ 11:21-24 21. そこで、ペテロは思い出してイエスに言った、「先生、ごらん下さい。あなたがのろわれたいちじくが、枯れています」。 22. イエスは答えて言われた、「神を信じなさい。 23. よく聞いておくがよい。だれでもこの山に、動き出して、海の中にはいれと言い、その言ったことは必ず成ると、心に疑わないで信じるなら、そのとおりに成るであろう。 24. そこで、あなたがたに言うが、なんでも祈り求めることは、すでになえられたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになるであろう。

ここではイエスは弟子たちに、ただ山に向かって話すと

いう具体例を示しておられる。私達はイエスが与えられた権威の内に、この人生のどんな山に向かって話すことができる。イエスはいちじくの木に向かって話したり、風や波に向かって話した。また、悪魔に向かって話した。神は「光あれ！」と言った。つまりすべては権威の問題なのだ。私達は王であり、祭司である。（黙示録1:6）王たるものはどのように語るか？権威をもって語る
のである。もし自分がキリストの内にあるとどのような存在であるのかを知っているなら、痛みに向かって、「痛み、去れ！」、病気に向かって「病よ、この身体から去りなさい！」、がんに向かって「がんよ、消滅しなさい！」
というであろう。あなたは王の王であるイエスの代理人ゆ
だから。イエスは私達にイエスの名によってすべてのこと
をしなさい、と言われた。その名前を私達は所有して
いる。それは私達のものである。もしあなたが思いを正
しく持っているなら、ものごとはずべてあなたに従う。
あなたは思いを新たにし、キリストの思いを持たなくては
いけない。イエスがあなたの中に、そしてあなたのため
にいることを知り、また信じなければならない。

使徒行伝 3:1-7 1. さて、ペテロとヨハネとが、午後三時の祈のときに宮に上ろうとしていると、 2. 生れながら足のきかない男が、かかえられてきた。この男は、宮もうでに来る人々に施しをこうため、毎日、「美しの門」と呼ばれる宮の門のところに、置かれていた者である。

3. 彼は、ペテロとヨハネとが、宮にはいって行こうとしているのを見て、施しをこうた。 4. ペテロとヨハネとは彼をじっと見て、「わたしたちを見なさい」と言った。 5. 彼は何かもらえるのだろうと期待して、ふたりに注目していると、 6. ペテロが言った、「金銀はわたしには無い。しかし、わたしにあるものをあげよう。ナザレ人イエス・キリストの名によって歩きなさい」。 7. こう言って彼の右手を取って起してやると、足と、くるぶしとが、立ちどころに強くなって、

ペテロは何を持っていたか？イエスの名前である。

ペテロは足なえの男に立って歩きなさいと言った。また、ペテロは彼の右の手を取ったことに注目してほしい。彼の手に手を置いたのだ。

使徒行伝 3:16 そして、イエスの名が、それを信じる信仰のゆえに、あなたがたのいま見て知っているこの人を、強くしたのであり、イエスによる信仰が、彼をあなたがた一同の前で、このとおり完全にいやしたのである。

ペテロはどうやってこの足なえの男がいやされたのか、証しをしている。彼は自分が何を持っているかを知っていた。つまり、イエスの名前である。彼にはその御名が与えられており、それを自分のものとして使うことがで

きた。そしてその名前は私達にも与えられている。「イエスの名を信じる信仰のゆえに」とある。それは御名への信仰によるのである。

マタイ 8:5-9 5. さて、イエスがカペナウムに帰ってこられたとき、ある百卒長がみもとにきて訴えて言った、
6. 「主よ、わたしの僕が中風でひどく苦しんで、家に寝ています」。 7. イエスは彼に、「わたしが行ってなおしてあげよう」と言われた。 8. そこで百卒長は答えて言った、「主よ、わたしの屋根の下にあなたをお入れする資格は、わたしにはございません。ただ、お言葉を下さい。（欽定訳の直訳：お言葉を語ってください。）そうすれば僕はなおります。 9. わたしも権威の下にある者ですが、わたしの下にも兵卒がいまして、ひとりの者に『行け』と言えば行き、ほかの者に『こい』と言えばきますし、また、僕に『これをせよ』と言えば、してくれるのです」。

マタイ 8:13 それからイエスは百卒長に「行け、あなたの信じたとおりになるように」と言われた。すると、ちょうどその時に、僕はいやされた。

これはもう一つの大切な鍵となる節である。この百卒長権威について理解していた。この原則を私達もしっかり理解する必要がある。宇宙の最高権威であられる方が

背後について下さるので、私たちはそのようになれ！と命じることができ、そうすると、そのように成る

彼は約束してくださった。

ヨハネ4:12-14 12. よくよくあなたがたに言う。わたしを信じる者は、またわたしのしているわざをするであろう。そればかりか、もっと大きいわざをするであろう。わたしが父のみもとに行くからである。 13. わたしの名によって願うことは、なんでもかなえてあげよう。父が子によって栄光をお受けになるためである。

14. 何事でもわたしの名によって願うならば、わたしはそれをかなえてあげよう。

最後に

私達はまだまだ沢山のことを御言葉から学ぶことができる。これらの聖句をまとめた小冊子は聖書をより深く学ぶため口火を切ったにすぎない。また、あなたがキリストにあってどんな者なのか、またあなたの中にいるキリストがどんな方なのかを理解し、知るよう願って編集するに至った。

私の祈りはパウロがエペソ人への手紙の中で祈っている、まさにこの祈りが願いである。

エペソ 1:18 あなたがたの心の目を明らかにして下さるよう、そして、あなたがたが神に召されている望みがどんなものであるか、聖徒たちがつぐべき神の国がいかに栄光に富んだものであるか（あなた方が知るようにと祈っている。）

エペソ 1:19-20 19. また、神の力強い活動によって働く力が、わたしたち信じる者にとっていかに絶大なものであるかを、あなたがたが知るに至るよう、と祈っている。 20. 神はその力をキリストのうちに働かせて、彼を死人の中からよみがえらせ、天上においてご自分の右に座せしめ。

ローマ 8:11 もし、イエスを死人の中からよみがえらせたかたの御霊が、あなたがたの内に宿っているなら、キ

リスト・イエスを死人の中からよみがえらせたかたは、あなたがたの内に宿っている御霊によって、あなたがたの死ぬべきからだをも、生かしてくださるであろう。

ピリピ 2:13 あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされるところだからである。

エペソ 3:20 どうか、わたしたちのうちに働く力によって(したがって)、わたしたちが求めた思うところのいっさいを、はるかに越えてかなえて下さることができるかたに。

これで神が私たちの内に宿っておられることや、私たちの内にある神の御力が、囚われ人を解放するために用いられるべきことが、時の始めから神の御心であり、ご計画であることがわかったことと思う。だから出て行って、それを行おうではないか。一歩を踏み出すのだ。そうすれば、決して失望することはなく、むしろ喜びに満たされるだろう。70人の弟子たちが、イエスに遣わされた旅から戻ってきた時に、こう言ったように。

ルカ10:17-19 17. 七十二人（他訳では70人となっているものもある）が喜んで帰ってきて言った、「主よ、あなたの名によっていたしますと、悪霊までがわたしたち

に服従します」。 18. 彼らに言われた、「わたしはサタンが電光のように天から落ちるのを見た。 19. わたしはあなたがたに、へびやさそりを踏みつけ、敵のあらゆる力に打ち勝つ権威を授けた。だから、あなたがたに害をおよぼす者はまったく無いであろう。

(欽定訳：私はあなたがたにへびやさそりを踏みつける権威を与え、敵に打ち勝つ能力を与えた。つまり、権威と能力の二つをイエスは与えて下さった。)

私はこの小さな教えが実を結ぶと期待している。神の言葉を読み、行動に移すすべての人が、私が見つけたのと同じ愛、平和、信仰、供給、主にある喜びを見つけることができるよう、心から祈る。

イザヤ 55:11 このように、わが口から出る言葉も、むなしくわたしに帰らない。わたしの喜ぶところの事をなし、わたしが命じ送った事を果す。

この誰かが言った小さなクオートを思い出す。「人生は短い。イエスのためにしたことだけが永遠に残る。」

引用聖句索引

はじめに

ヨハネ 6:44, ガラテヤ 4:3, 1コリント 15:27-28,
コロサイ 1:27, エペソ 3:17-20, ヨハネ 14:12, 2テ
モテ 2:15, エペソ 1:13

セクション1 神のオリジナルプラン

マラキ 3:6, ヘブル13:8, ヤコブ 1:17, 創世記
1:26-28, 詩篇8:3-8, 詩篇115:16, ヘブル 2:5-7, 1
テモテ 2:13-14, ローマ 5:12, 創世記 2:17, 創世
記 3:1-4, ヨハネ 8:44, 1ヨハネ 3:8, 創世記3:5-6,
創世記 3:13, ルカ4:5-6, ローマ 6:16

セクション2 支配権の奪還

イザヤ 53:4, 5, 12, 1ペテロ 2:24, マタイ 28:18, 黙
示録 1:18, 1 ヨハネ 3:8, ホセア 4:6, ローマ
5:12, 2 コリント 5:21, 使徒行伝 10:38, 詩篇
103:6, コロサイ 1:20, ピリピ 2:9-10, エペソ
1:20-22, コロサイ 2:15

セクション3 キリストと共に相続する

ガラテヤ 3:14-16, 26-29, 4:1-7, ローマ 8:15-23,
29, ガラテヤ 4:19, エペソ 2:6, 1ヨハネ 4:17, コ
ロサイ 2:2:9-10, エペソ3:6

セクション4 奥義

ヨハネ 16:7-13, 1コリント 2:14, コロサイ 1:25-27,
エペソ 3:3-6, 1コリント 2:7-8, コロサイ 2:9-10,
コロサイ 1:21-22, ヨハネ14:20 1ヨハネ 3:1-2, エペ
ソ 3:14-15, ローマ8:17, マタイ 28:18, ルカ10:19, ロ
ーマ 8:11

セクション5 私達の任務

マルコ 16:15, マタイ 10:7-8, マタイ 28:18-20, 1
ヨハネ 2:6, 1ヨハネ 4:17, 2コリント 5:19-20

セクション6 任務のための力

ヨハネ14:12, 13:17, 使徒行伝1:8, ヨハネ 1:12, 1
ヨハネ 2:6, 1ヨハネ 2:20, 2コリント 5:17-18, 1
ヨハネ 2:27, 1ヨハネ 3:1-2, 1ヨハネ 4:17, 2コ
リント5:21

セクション7 神の子として自身を表す

2コリント 5:17-18, ガラテヤ 6:15, エペソ 4:11-15,
1コリント 2:16, エペソ 3:17-20, ローマ 8:19-21,
ヘブル 2:3-4, 2コリント 12:12, ローマ 15:19, 使
徒行伝 4:30, 使徒行伝 6:8, エペソ 1:4-5, エペソ
1:17-23

セクション8 御言葉を行い、信仰によって踏み出す

1 コリント 3:1-3, 1 ペテロ 2:2, ヘブル 5:11-14,
ヨハネ 7:17, ヨハネ 4:27-34, マタイ 7:24-27, ヤ
コブ 1:22-24, マタイ 28:18-20, マルコ 16:15-18

セクション9 問題に向かって話す！ イエスの御名に信仰を置く

2コリント 4:13, ヘブル 1:3, マルコ 11:21-24, 使徒
行伝3:17, 使徒行伝 3:16, マタイ8:5-9, マタイ8:13,
ヨハネ 14:12-14

最後に

エペソ 1:18-20, ローマ 8:11, ピリピ 2:13, エペソ
3:20, ルカ 10:17-19, イザヤ 55:11